

読みやすく、わかりやすい議会広報づくり

議会広報編集特別委員会 委員長 魚谷 洋一

7月10日、東京での第80回町村議会広報研修会に委員4名で参加した。江端事務総長より、今回の研修会の目的は「住民にとってわかりやすい広報を作成する。」に主眼をおいている、との挨拶の後、3名の講師による講演があった。

まず、「わかりやすい表現・表記のために」と題して、佐竹秀雄氏（日本漢字能力検定協会 現代語研究室長）の講演では、わかりやすさの原理として、文章の区切り（段落・節・章）をはっきりさせ、一つの段落や文には一つのことだけを書く（箇条書きの精神）、前文、見出し、小見出しを利用し相手が予測しやすいよう、次に何を述べるかを前もって知らせる書き方をする（予約の精神）の2点を、用語・語法上の注意点（ラ抜き（見れる）、レ足す（書ける））や

敬語表現における留意点（ご案内してください ご案内をしてください等）や読みやすい表記を心がけること等を交えての講演であった。

次に、「議会広報誌の編集」と題して、西村良平氏（編集者、日本エディタースクール講師）の講演では、記事の一览・おすすめのところを見てもらう（目次の役割等）見出しから入っていくと何を書くか決まる・見出しを見て読者が読むか、読まないか判断する・見出しを見れば、どういう文章か判断できる（見出しと記事）等、

目次や見出しについての講演であった。

最後に「広報写真の見方、考え方」と題して、神島美明氏（写真家）の講演では、デジタルカメラの進化に伴い写真の評価が変わってきている・掲示板的な（お知らせ）写真から魅力的な写真に（写真の価値基準の変化）、自分の考えで見え伝える写真を撮る・慣れで撮るな、考えて撮る（しっかり撮るという意思が必要な時代）、コントラストのいい写真は、メリハリ度が上がってくる（他の写真との差別化）、体感温度を色

で感じさせる（美とは五感で撮る）、春に夏の写真を撮る…濃い緑を入れる（写真に写らない季節感を）、目線の先にあるものを感じさせる・どこを、何を見ているのか、見えない部分を写真で感じさせる（人は見えないものに興味を覚える）の6点を実映像を交えながらの講演であった。

以上、これまで議会広報の編集にあたって主眼としていた「読みやすく、わかりやすい議会広報づくり」を再認識するとともに、なお一層の内容の充実にも努めていきたい。

